

2020 年度 女子バレー部 メンバーインタビュー

部員数	20人以下	主な成績
所属学群	体育専門学群	全日本インカレ2連覇（2018,2019）
練習場所	球技体育館	東日本インカレ準優勝

田中美紅（体育 4 年/主務）

野津亜珠佳（体育 2 年）

— 私が目指す「バレー」

田中

筑波大のバレー部、いろんな面で、戦力を立ててそれに乗りつつ、勝負所で勝負をかけます。決めた戦略を実行する技術力、確かな技術と勝負強さがチームの特徴です。

個人として、チームの中での役割を果たしつつ、勝負所で絶対とする一点という場面で、迷わず勝負に行けるようなバレーがしたいと思っています。

野津

筑波大学は今の 4 年生が主体で 2 連覇してきた。その中で、去年のインカレで、途中出場の選手や、サポートの大切さを学びました。チーム全員が一体となり、チームで勝つことを体感しました。自分自身、少しでも、チームに貢献したいと思っています。チームの流れを引き寄せる選手になりたいと思っています。



— 筑波大学をどう思っていた？

田中

体育が好きで、筑波にきました。その中でも、スポーツ科学部は他の大学にもありますが、他の大学よりも、栄養など幅広く運動について、学べるのかなと感じて筑波を選びました。

さらに、筑波大学は、どの部活も強い。競技が違ってもレベルが高い人の中で、学びながら、刺激をもらえる学校だと思います。

野津

自分も体育が好きでした。その中でも、勉強も部活も、レベルが高い。部活については自分も、いろんなチームがレベルが高く、他チームの学生と交流することで、価値観を広めて、いろんな事を知りたいと思って、筑波を選びました。

また、高校よりもレベルが高く、もがいて、日本一のチームで、自分を高めたいと思って筑波を目指すようになりました。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなところ

田中

高校までのバレーは、強豪校ではなかったが、先生に言われてやるという感じでした。きつい練習を考える事なくやる、きつい練習が多かったですね。

ここでは、きつい練習もありますが、一人一人が考えてやる事を大事にしています。考えてやる挑戦は、みんなで影響を与え合うことができます。一人一人が本当に考えて競技している。これは自分のプレーを向上させるためにも、チームをいい方向に進めるためにも、しっかりとと考えている人が多い所が好きな所であり、学んだ事もあります。

野津

毎日の練習の中に「こうしたい」という意図を先輩が発信して、それをチーム全体が理解することで、みんなが目標を持って練習に取り組める所がいいところです。

そして、すごく上手な先輩と練習できて、さらに、もっとこうした方がいいと教えてもらえる。今まで自分中心のタイプだったのですが、教えてもらう中でいろんなことを学べる、この環境はすごく有り難いなと感じています。



— これからの目標（直近の目標、人生の目標）

田中

目標は、このチームでインカレ3連覇を目指しています。自分自身、このチームは日本一のチームだと思っているので、これを明確に結果として日本一だと証明することが目標です。また、リベロとして、日本一のプレーヤーになることを目指しています。

野津

まずはチーム全体で、インカレ優勝を目標に、個人としてはチームにいい流れを引き寄せる選手になることを目指しています。また、周りに活力、やる気を与える、周りのモチベーションを上げ続けられるように、元気にさせる存在になりたいと思っています。周りに刺激を与えられる人でありたいなと思っています。

— 未来のチームメイトに一言

田中

もちろんきついことや挫折もあるかもしれない。その中で、自分が成長したいと思い、チャレンジし続ければ、いいものが得られる環境だと思います。こうなりたいと思って筑波に来ても、ここでいろんな経験をすることで、考え方が変わる人もいます。どんな道を選んでも、成長しようと貪欲に進められる人は、きっと成長できる。筑波には、どの道を選んでも、そのやりたい事を助けてくれる人が必ずいる。筑波大学は、成長しようと思った時に、挫折も含めて、最高の環境だと思います。意欲のある若者、是非来てください！

野津

絶対にこの4年間は無駄にならないと、今の時点で感じています。

ここでしか、筑波でしか経験できないことが筑波にはあります。部活も、勉強も、日本一の学校でたくさんのことを吸収することができる。人間性含め、社会に出た時に、絶対に役に立つ事をたくさん学べる場所です。

挫折することもあるかもしれないけど、それでも努力し続けること、当たり前な様で難しいこと、それをやり遂げる人がたくさんいる、そんな最高の環境で、自分を高められます。筑波大学と共に、成長しましょう！

